

下仁田最古の人類がつくった！

金剛萱遺跡の石器

約3万6000年前の地層から発見された石器が接合し、
石器のもととなった原石と旧石器人の巧みな技術が明らかに！



③ 接合した状態

3cm



② 隙間を開けて配置

① 剥片 19 点



金剛萱遺跡と石器製作のようす

金剛萱(こんごうがや)遺跡は、青倉にある旧石器時代の遺跡です。発掘された石器のうち、およそ 70 点が接合しました。これらの接合資料から、当時の人々が荒船山で産出する安山岩を河原でひろい、山奥にある遺跡まで運んだうえで、石器に加工していたことがわかりました。

接合が示すホモ・サピエンスの技術

写真は、ばらばらになった石器が接合される様子です。これらは、ホモ・サピエンス(新人)が日本列島にやってきた初期のものと考えられており、石器の製作工程を具体的にたどることができる、全国的にも貴重な資料です。